

Vol.229 2016.4.1

かわ

Contents

- わがまちのかわ〈筑前町〉……………P1～P2
- 河川愛護絵画コンクール入賞者紹介……P3～P4
- 「防災セミナー」報告/ふくおか水もり自慢……P5～P6
- 福岡県災害復旧実務講習会(第2回)の報告…P7～P8
- 福岡の身近な川とさかなを知ろう……………P9～P10
【番外編】No.34メコンの迫力は車窓から!



郷土ふるさと 福岡の河川を知る

わがまちの かわ

第29回

ちく ぜん まち

筑前町

CHIKUZEN TOWN

福岡県

筑前町



筑前町の概要と河川

都会にいちばん近い田舎 筑前町

筑前町は、平成17年3月22日に旧夜須町と旧三輪町の合併により誕生した町で、福岡県の筑紫平野の北部に位置し、面積約67km²、人口2万9千人の町です。古くから米・麦・大豆を中心とした農業地帯であり、福岡都市圏や久留米広域圏に近接している住みよい町です。「わがまちのかわ」としては、一級河川で筑後川水系である、草場川・曾根田川・三並川・天神川・山家川・長音寺川・牟田川があり、ごく一部ではありますが、宝満川と遠賀川水系の穂波川があります。その中でも、町の中心を流れる草場川・曾根田川の2つの河川を筑前町の主要河川として位置付けています。

ふれあいファーム

曾根田川沿いにある安の里公園に隣接し、園内は茅葺屋根の民家や水車などの懐かしい昭和20年代の農業風景を復元しています。前庭では、バーベキューも楽しめます。



草場川

草場川は、小石原川を源流に持ち、長年の歳月を経てできた自然堤防が主体の、総延長は約9.0km²の河川です。河畔には、桜並木が1.5km²にわたり植栽され、毎年春の開花期には、たくさんの方が訪れます。桜とともに咲き誇る菜の花とのコントラストも鮮やかで、夜にはライトアップも行われ幻想的な風景が広がります。

曾根田川

曾根田川は、旧夜須山塊に源流を持ち、全長7.8km²の河川で比較的穏やかな丘陵地帯を通り、宝満川に注いでいます。河川としては、主に農業用水としての利用度が高くなっています。また、河川沿いに整備された曾根田親水公園では、6月には蛍が飛び交い、夏の水遊び、森林浴や花見など楽しめるスポットとなっています。



**ファーマーズマーケット
みなみの里**

町北部にある「筑前町ファーマーズマーケットみなみの里」では、地元の新鮮な野菜や筑前町の特産品クロダマルを使った加工品・地元のお母さんたち手作りの料理を楽しむことができます。



上高場の大藤

筑前町の花は藤。上高場にある「藤の里公園」には、420㎡の藤棚に樹齢100年余りの大藤が1mほどの花房をつけます。毎年、4月下旬に地元住民主催の大藤祭りも開催されています。



コスモス・ひまわり畑

ボランティアが中心となって転作水田にコスモスやひまわりを植えています。町のあちこちで、鮮やかな花々を見ることができます。

夜須高原記念の森

森林浴や樹名当てウォークラリーを楽しめる針・広葉樹林、各種遊具がある風の広場、ちびっこ広場、溪流園やグリーン迷路などがあり、子どもからお年寄りまで、気軽に自然にふれることのできる施設です。



炭焼池公園

池のまわりには、藤、つつじ、紫陽花などの花々や樹木に彩られ、周囲をめぐる遊歩道は散歩するには最適です。春には麦、夏には稲の田園風景も楽しめます。



大刀洗平和祈念館

町南部には、「筑前町立大刀洗平和祈念館」があり、かつて軍都として栄えた大刀洗飛行場の歴史や関連施設の概要を伝えています。



平成27年度

河川愛護絵画コンクール 入賞者紹介

今年度も「河川愛護絵画コンクール」では、県内57の小学校から659点の応募があり、その中から70点を入選作品としました。今回は特選、一等の絵画と、入賞者の子供たちを紹介します。

作品講評
福岡県教育庁教育企画部社会教育課 野中氏

特選



低学年 みやま市立下庄小学校2年 瀬口 華鈴さん

画面からはみ出るくらいに大きく、彩り豊かに描かれた魚がとても印象的です。川辺から勢いよく動きだすような魚を両手で抱え、喜んでいく様子が伝わってきます。みんなで楽しく川遊びができるような環境を大切にしたいという思いが表現できています。



中学年 志免町立志免西小学校3年 木下 凱翔さん

水面と同じ視点から、川で泳ぐ生物を見ている様子が生き生きと描けています。生物もクレヨンや水彩絵の具を使い分け、特徴的な形を美しく表現しています。暑い夏空の塗り方は、にじみの技法を使っており、透明感あふれた作品に仕上がっています。



高学年 刘田町立白川小学校5年 今津 明日香さん

静かに流れる川辺に、柔らかな光を放ちながら舞う蛍の姿を感嘆のまなざしで見つめる様子がとても伝わってくる作品です。蛍など多くの生物が、これからも川に住み続けてほしいという願いが伝わってくる作品です。

一等



久留米市立南薫小学校1年 松田 ひなたさん



福岡市立福重小学校2年 山田 めいさん



豊前市立宇島小学校3年 渡邊 隆宏さん



行橋市立稗田小学校4年 泉 海斗さん



刘田町立白川小学校5年 木戸 葉琉さん



春日市立春日野小学校6年 小島 夕極さん

河川愛護絵画コンクール入賞者

特選

瀬口華鈴	2年	みやま市立下庄小学校
木下凱翔	3年	志免町立志免西小学校
今津明日香	5年	苅田町立白川小学校

一等

松田ひなた	1年	久留米市立南薫小学校
山田 めい	2年	福岡市立福重小学校
渡邊 隆宏	3年	豊前市立宇島小学校
泉 海斗	4年	行橋市立稗田小学校
木戸 葉琉	5年	苅田町立白川小学校
小島 夕極	6年	春日市立春日野小学校

二等

松村 紗良	1年	志免町立志免西小学校
石田 愛実	1年	みやこ町立城井小学校
酒井琉乃介	2年	福津市立福間小学校
すみほのか	2年	八女市立岡山小学校
平野 喬久	3年	宇美町立原田小学校
大瀬 和真	3年	豊前市立宇島小学校
藤岡 諒成	4年	苅田町立苅田小学校
渋谷鈴太郎	4年	福津市立上西郷小学校
村上 豪	5年	苅田町立白川小学校
渡邊 優樹	5年	みやこ町立豊津小学校
黒岩 悠太	6年	苅田町立片島小学校
野中 春花	6年	春日市立春日野小学校

平成28年度の 河川愛護絵画コンクール

平成28年度も河川愛護絵画コンクールを行う予定です。学校を通じて募集しますので、みなさまぜひご参加ください。

■スケジュール(予定)

案内	平成28年5月頃
作成期間	案内～平成28年8月末
応募締切	平成28年9月初め
入賞者決定	平成28年10月頃
表彰	平成28年12月頃



三等

川内 聖来	1年	宇美町立原田小学校
西水 俊貴	1年	柳川市立豊原小学校
上瀧 佳真	1年	大牟田市立大正小学校
大坪 愛実	2年	柳川市立豊原小学校
高口真理菜	2年	柳川市立豊原小学校
坂之下 葵	2年	須恵町立須恵第3小学校
只隈 璃音	3年	みやま市立下庄小学校
江藤 優心	3年	朝倉市立朝倉東小学校
郡司掛壮太	3年	豊前市立宇島小学校
森元 翔也	4年	みやこ町立節丸小学校
中嶋 梨乃	4年	朝倉市立朝倉東小学校
野口 真桜	4年	福津市立福間小学校
松蔭 流星	5年	苅田町立白川小学校
稲田 一斗	5年	みやこ町立久保小学校
竹中 すず	5年	みやこ町立久保小学校
吉開 百花	6年	柳川市立二ツ河小学校
松本みいな	6年	苅田町立片島小学校
友添 日南	6年	柳川市立二ツ河小学校

佳作

野田 幸希	1年	柳川市立豊原小学校
高野純ノ介	1年	豊前市立角田小学校
川本 大冴	1年	みやこ町立城井小学校
大束寅之亮	1年	みやこ町立城井小学校
久家 健太	1年	豊前市立横武小学校
永尾 愛華	2年	志免町立志免西小学校
田中みさき	2年	直方市立新入小学校
我有 真鳳	2年	苅田町立南原小学校
豆塚 藩蔵	2年	春日市立春日野小学校
廣瀬 珠羅	2年	柳川市立矢ヶ部小学校
野村 恋良	2年	行橋市立行橋北小学校
進戸 麻結	2年	行橋市立行橋北小学校
城家こもも	2年	みやこ町立城井小学校
恵良 沙彩	3年	志免町立志免西小学校
青柳 空良	3年	豊前市立宇島小学校
北野 真世	3年	福岡市立福重小学校
小山 友寛	3年	行橋市立行橋小学校
堀内こひな	4年	苅田町立白川小学校
高野晃太郎	4年	豊前市立角田小学校
浅野 美優	4年	みやこ町立節丸小学校
川津真奈美	4年	柳川市立豊原小学校
柳井 咲希	5年	みやこ町立豊津小学校
石川 文太	5年	宇美町立原田小学校
今吉 碧	5年	志免町立志免西小学校
野見山香織	5年	飯塚市立目尾小学校
安部 鈴加	5年	みやま市立下庄小学校
森本 瑠	6年	苅田町立片島小学校
徳永小羽音	6年	苅田町立片島小学校
小野 雅紀	6年	苅田町立片島小学校
沖永 颯司	6年	苅田町立片島小学校
小野 綾香	6年	柳川市立二ツ河小学校

平成27年度「防災セミナー」報告

平成28年2月3日(水) 場所:東京都港区虎ノ門 発明会館ホール

● 平成28年2月3日、(公社)全国防災協会主催の「防災セミナー」が開催されました。

● 近年の気候変動や昨年9月の関東・東北豪雨による大災害を受け、**防災行政の最新情報**について様々な分野から講義がありました。

● 初めに、気象庁の坂井防災気象官から「**段階的・早めの**

対応判断を支援する防災気象情報を目指して」ということで、防災気象情報とその情報ごとに市町村、住民がとるべき対応について事例とともに紹介がありました。特に「**特別警報**」は、最大限の警戒呼びかけで既に災害が発生している場合もあることから、この情報を待って避難勧告発令を判断するべきでなく、既に避難勧告が発令されていても、災害発生の危険性が高まっていると改めて住民に周知を図るべき情報とのことでした。また、自治体と气象台との連携を強く訴えられていました。

● 内閣府の森本企画官からは、「**水害時の避難・応急対策検討WGについて**」講義をいただきました。中央防災会議の下部の組織として、WG(ワーキンググループ)では6つのテーマ(①避難のあり方、②情報提供の在り方、③災害対応復旧を支える仕組み・支援、④避難生活への対応、⑤ボランティアと行政の連携・協働、⑥地域における防災力の向上)について検討されています。今年3月末には取りまとめを行うとのことでした。

● 東京大学の田中淳教授からは、「**新たな減災に向けた避難を考え直す**」というテーマで、津波を中心に今までの避難実態から避難を再考し、避難に資する情報とは何かという話がありました。実態としては、被災経験の有無で避難率が違っている、ほとんどの人がハザードマップを見ていないという問題、実態から避難を再考すると住宅の場所や災害の段階によっては垂直避難も有効、大規模災害の場合は水平避難しかないこと等が紹介されました。その上で、避難に資する情報としては、分かり易いこと、単体の情報でなく体系的であること、避難所の開設情報等の過程も含めて行動切り替えを促すものにする必要がある、とのことでした。

● その他に、国土交通省河川事業調整官の林氏から関東・東北豪雨を踏まえた最近の国土交通省の動きについて紹介がありました。(公財)リバーフロント研究所の土屋理事からは、**広域避難の重要性と課題**について、「洪水は自治体の範囲を超えて起こる」ということで江戸川区避難計画を事例にして紹介がありました。CeMI環境・防災研究所の松尾副



内閣府・森本企画官

所長からは、「**タイムライン防災**」について、「何時」「何を」「誰が」を構成要素とする実践的なタイムラインの作成は、大災害に不慣れな自治体担当者にとって非常に役に立つとの講演がありました。①先を見越した早めの行動が安心・安全、減災に、②予め役割を決めて無駄な調整は最小限に、③参加機関のコミュニケーションツール、④意思決定支援ツール、⑤チェックリストとして活用、⑥活用と振り返りが改善に、とのまとめがありました。

● たった1日の講演会でしたが、その内容はとても充実しており、会場も多くの自治体の防災担当で席が埋め尽くされ大盛況でした。



陣内全国防災協会会長



国土交通省水管理・国土保全局長

ふくおか水もり自慢!

第12回 ふくおか水もり自慢! in 遠賀川

平成27年12月6日に遠賀川水辺館において、「ふくおか水もり自慢!in遠賀川」が開催されました。今回で12回目を迎えた「ふくおか水もり自慢!」は、福岡県内の「水」・「もり(森)」(山林、川、ため池、水田、水路、海、干潟など)に関わる活動をしている団体(学校、市民団体、NPO、企業、国、地方

自治体)が一堂に会し、異分野交流や行政と市民とのパートナーシップを促進するとともに、他の団体の活動内容を学び、今後の活動の糧とするためのイベントです。

今年も様々な活動をしている団体が参加し、交流を深めました。

現地見学会

事前に研修を受けた学生スタッフが「川の案内人」となって、土木学会デザイン賞を受賞した遠賀川の緩傾斜護岸、再現された川ひらたを参加者に案内しました。またスペシャルゲストのやぎたちも駆けつけてくれました。



活動報告

各団体は、それぞれの活動を持ち時間3分で披露します。今回は、40件の発表がありました。絵や作品、スライド、劇などで各団体の活動について報告を行いました。



【発表団体(敬称略、順不同)】

NPO法人直方川づくりの会、龍王・山・里・川の会、古賀河川図書館、六ツ嶽四国参拝団、水の会/矢部川をつなぐ会、筑後川・矢部川・嘉瀬川流域史研究会、直方川づくり交流会、九州大学流域システム工学研究室、六田川をきれいで水害のない川にする会、めだかの学校、豊の国 海幸山幸ネット、折尾東市民センターおもしろこども教室、福岡県立大学人間社会部公共社会学科、北九州県土整備事務所、飯塚だいぶカヌークラブ、香月・黒川ほたるを守る会、特定非営利活動法人 アザメの会、川船製作研究会、福津市立福岡南小学校、日本野鳥の会筑後支部、水と緑の楽校、はかたわん海援隊、NPO法人遠賀川流域住民の会、任意団体南畑ダム貯水する会、SWEEP、金剛もととり保全協議会、朝倉市に小水力発電を進める会、遠賀川源流サケの会、北九州インタープリテーション研究会、金辺川を楽しむ会、北九州市、遠賀川流域子ども水フォーラム実行委員会、堀川再生の会・五平太、九州産業大学、鞍手の明日を紡ぐ会、福岡県河川課、国土交通省遠賀川河川事務所、NPO法人「小竹に住みたい」まちづくりの会

次回もたくさんの方の参加をお待ちしています!

平成27年度 福岡県災害復旧実務講習会 (第2回)の報告

日時 平成27年12月22日(金) 10:20~16:35

場所 (公財)福岡県建設技術情報センター3階 大研修室



平成27年度福岡県災害復旧実務講習会(第2回)(主催:福岡県河川協会)を開催し、県内の各市町村及び県土整備事務所から約90名にご参加いただきました。

当講習会は、適正かつ迅速な災害復旧事業を推進するため、災害復旧の実務を行う担当者に向けて、年2回開催しています。

第2回目である今回の講習会では、はじめに、平成27年発生災害査定総括を行うとともに、災害復旧事業を進めるうえで必要となる事務手続きの説明を行いました。また、新たに改定された内容や査定結果を踏まえた留意事項について詳しく解説を行い、申し込み時にいただいていた質問に関してはテキストでの回答に加え、重要な箇所については補足説明も行いました。

午後の講義では災害査定事例紹介として、8月の台風15号による豪雨で被災した久留米県土整備事務所と京築県土整備事務所行橋支所に発表していただきました。行橋支所からは、一般県道上矢山中黒田

平成27年度福岡県災害復旧実務講習会(第2回)

講習会テキスト



【河川災】福岡県上管内 二瀬河川 長野川 鹿野川(127. B. 25)

平成27年12月22日(火)

福岡県河川課
福岡県河川協会

講習会テキスト

平成27年度福岡県 災害復旧実務講習会(第2回)プログラム

1. 開会挨拶
2. 平成27年災害査定の総括
3. 災害復旧事業費の国庫負担金交付申請手続きと精算・成功認定について
4. 災害復旧事業の繰越手続きについて
5. 災害査定に関する留意事項～平成27年災を踏まえた今後の留意事項～
6. 設計変更等について
7. 河川災害復旧工事における留意事項及び平成27年改定について
8. 道路災害復旧工事における留意事項
9. 平成27年災害査定事例①～道路災・応急本工事～
10. 平成27年災害査定事例②～河川災・応急仮工事～
11. 災害査定における留意事項(九州地方整備局)
12. 質疑応答
13. 閉会挨拶

線の道路災害復旧工事について、応急本工事を行うまでの協議や手続きについて、実体験に基づいたお話をしていただきました。続いて久留米県土からは、筑後川水系一級河川広川の河川災害復旧工事について、応急仮工事の必要性や重要種生物に対する配慮など、実例を交えてお話をしていただきました。両事務所とも査定までの限られた時間にもかかわらず、現場をしっかりと把握した設計となっており、発災から応急工事を行う場合の参考となりました。

最後に、国土交通省九州地方整備局の薄田技術検査官から、査定官として他県に出向かれた事例について、我々とは違った視点でのお話をいただき、有意義な講義となりました。

平成28年度も災害復旧事業に係る各種講習会を予定しており、初任者から経験者まで幅広くお役にたてる内容を企画してまいりますので、多くの方のご参加をよろしくお願ひします。



九州地方整備局 技術検査官 薄田 様



久留米県土整備事務所 鹿子生 様



京築県土整備事務所行橋支所 箴島 様

ふくおかの身近な川と さかなを知ろう



番外編

No.34 メコンの迫力は車窓から!

今 回の「ふくおかの身近な川と魚を知ろう」は番外編! 現在、初めての東南アジアでの魚類調査中。日本と全然違う東南アジアを皆様にご紹介したいと思い、今、カンボジアのシェムリアップのホテルで執筆している最中です。もしかしたら、行ったことのある方がいらっしゃるかもしれません。なぜなら、今、私がいる場所は、世界遺産のアンコール遺跡群が近隣にある世界有数の観光地。街を歩くと、地元のカンボジア人以外に、欧米人、韓国人多数。そして、時々、日本語を耳にするほど。世界各国から、多くの観光客が訪れているようです。そんな中、私たちは東南アジアに生息する淡水魚類の多様性調査の一環として、この地を訪問しています。まずは、「川に出かけて、こんなにすごい生き物を捕まえました」の報告の前に、移動中の車窓から、、、

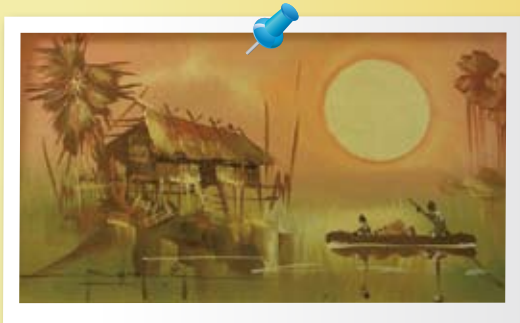
今 は12月中旬。私たちはメコンの乾季にやってきました。車で移動中の風景は、小さな小川が流れ、広大な平地が広がり、平地の中には農業用のクリークが流れ、インディカ米の水田が広がり、所々ココナッツ等のヤシの木が見られます。しかしながら、雨季になると、、、ホテルの壁に一枚の絵画が飾られています。その絵の中に描かれている家は高床式になっていて、人が小舟で移動している姿が見られます。そして、実際に、車窓から目に飛び込む全ての家々が、全部、高床式になっているのです。特に、トンレサップ湖に近づけば近づくほど、床の高さが上がっていきます。そ

れもそのはず。雨季にはメコン川からトンレサップ川に河川水が逆流し、湖の水位が約8mも上昇すること。写真の人々は乾季には陸上で生活していますが、雨季には水上生活者となるそうです。

× コン川は東南アジアで最も大きい河川。しかも、東南アジア圏の河川は雨季と乾季が存在するため、流量差が著しく、最大流量と最小流量の差が100倍近くになります。比較対象として、アメリカ大陸のミシシッピ川についても記述しますが、その流量差は10倍未満。メコンのすごさを理解できます。でも、実は日本も、温帯モンスーン気候で梅雨が存在するため、同じように流量差が激しく、例えば、筑後川の場合、その差は約100倍です。ほぼメコンと同様か、もしかしたら、筑後川の方がやや大きいかもしれません。しかしながら、この2河川は川の規模が全く違います。東南アジア最大河川メコンの流域面積は800000平方キロ、九州最大河川の筑後川は約3000平方キロ。同程度の季節変動を見せる2



車窓から



高床式の絵画

河川ですが、流域の規模がはるかに大きいメコンの雨季の川の威力は、きっと日本の川よりもとても大きく、人々の生活圏内に流れ込んでくるのです。以前、日本のある川が氾濫した時、日本人は「こんなに怖い思いをしたのは初めてだ」とニュースでコメントしておりましたが、日本に働きに来ている東南アジア圏の人々はマイクを向けられて、「なぜそんなに騒いでいるのか分からない」とコメントしておりました。川の規模が大きすぎて、日本のように堤防をかさ上げしてあふれないようにするなんてことは、容易にはできないのでしょう。そんなメコン流域の人々は、自然の川の力に逆らわず、それを受け入れて、工夫しながら生活しているのです。日本の場合は、川をあふれさせない努力を長年やってきたわけですが、カンボジアのように、はるかに規模の大きい川を相手にする必要があったなら、もしかしたら、日本人は自然をコントロールするのではなく、自然の力を受け入れ、今とは違った川とのつきあい方を選択したかもしれません。

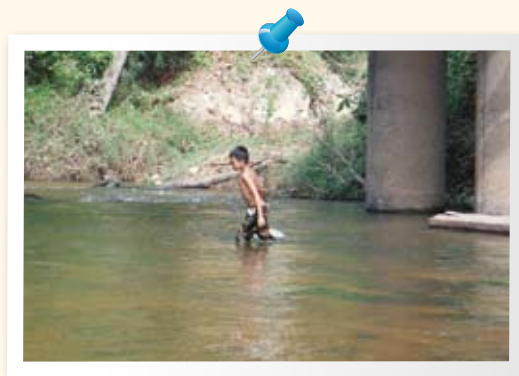
さて、調査の初日。投網とタモ網を持ちこんでいた私は、タモ網を河川敷に放置して、川の中に入って投網を打っていました。すると、数名の川餓鬼たちがやってきて、勝手に私のタモ網を使って魚を採り始めていました。その数は時間がたつにつれ、どんどん増えて、、、日本で調査をやっている、なかなかこんな光景は見られません。カンボジアには川餓鬼たちがたくさんいて、言葉が通じないのに仲間に入ろうと集まってくるのです。

さて、私たちは採集を終えて、河川敷上で魚の長さを測ったり、写真を撮影したりしていたのですが、川餓鬼たちは「オトウサン、オトウ



高床式

サン、、、」と話しながら、捕まえた魚を私たちに手渡し始めたのです。「オトウサン」って聞こえるこの単語は何だろう？最初、現地の言葉がたまたま日本語に聞こえているのだろうと思っていました。ところが、実はこれはれっきとした日本語だった！現地での案内役を務めてくださったカンボジア在住の日本人スーパー研究者に聞いてみたところ、この辺りの子供たちは、両親が観光客相手の商売をやっているため、日本語の単語をほんの少しだけ知っているとのこと。それだけたくさんの日本人観光客がこの地を訪問しているということです。でも、別れ際は子供たちに「シェイシェイ」と手を振られ、、、カンボジア調査報告「市場編」「魚類編」等は、次号以降にご紹介いたします。



川餓鬼

鬼倉 徳雄 おにくらのりお

- 九州大学大学院農学研究院・助教
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類会自然保護委員会・希少魚類部会委員

主な著書／

- 有明海の生きものたち 干潟・河口域の生物多様性(佐藤正典編)
- 干潟の海に生きる魚たち 有明海の豊かさと危機(日本魚類学会自然保護委員会編)

水辺の花図鑑

シロバナタンポポ

キク科タンポポ属

- 開花時期: 3~5月
- 撮影地: 久留米市百年公園高良川流域
- 撮影者: Kido.N

葉の中央からまっすぐに伸びた茎の先に花をつける。花径は4センチくらいである。花びらはすべて白い舌状花からなる。最近では関東地方でも見かけるが、どちらかという西日本に多い。



花言葉は「私を探して、そして見つめて」
(みんなの花図鑑より)



協会からのお知らせ

平成28年度 福岡県災害復旧実務講習会

日時: 平成28年4月22日(金) 10:30~
場所: (公財)福岡県建設技術情報センター
3階 大研修室
主催: 福岡県河川課・福岡県河川協会

平成28年度 災害復旧実務講習会

日時: 平成28年5月17日(火)~18日(水)
場所: 東京都千代田区北の丸公園
科学技術館サイエンスホール
主催: (公社)全国防災協会

お知らせ

平成28年度 河川愛護絵画コンクール

毎年、河川愛護月間(7月)の行事として、小学校児童による河川愛護絵画を募集しています。ふるって応募ください

募集案内: 平成28年5月頃、
福岡県河川協会のホームページに掲載予定。
応募締切: 平成28年9月初め

第13回「ふくおか水もり自慢!」

第13回「ふくおか水もり自慢!」を福岡ブロックで開催予定です。詳細は決まり次第福岡県河川課HP等でお知らせいたします。多くの方のご参加をお待ちしています♪
また、平成28年6月頃には「ふくおか水もり自慢!」運営の業務委託団体を公募いたしますので、HPにてご確認ください。



編集 後記

全国「防災セミナー」に参加した。この中で日本人は「災害と付き合う作法」、「自然に対する礼儀」を忘れてしまったのだろうかとの話も。奇しくも鬼倉先生連載の「川とさかなを知ろう」は今回「番外編」で、メコン川流域の高床式の話。川の規模が違っていたら日本人の川とのつきあい方も違っていたかもとのこと。洪水を災害としない知恵とは。(古賀)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL: 092-633-2826(直通)
FAX: 092-643-3669
企画 セントラル印刷株式会社